

我が家の料理

一日の生活の中でも食事の時間を楽しみにしている方は多いのではないのでしょうか。家族や親しい人と話をしながらおいしい料理を食べる時間は、ただおなかを満たすだけでなく、気持ちがいフレッシュできたり、やる気がわいてきたりしますよね。

昨今は働く女性が増えてきたことに伴い、男性がキッチンに立つ機会も増えてきているようです。あるキッチンメーカーが行った調査によると、男性が週に1回以上キッチンに立つ割合は20代で72・8%、30代で69・9%と、若い世代の利用率が高い傾向が見られました。男の料理というと豪快で大雑把なイメージがありますが、実際にキッチンに立つと、調味料はグラム単位できちんと量るような方が多かったです。実はこんな繊細なところもあったんだ、なんてこれまで知らなかった意外な一面が見られるかもしれません。

そして同居生活を始めると、

お互いの味覚の違いが分かってきます。これはそれぞれの育った家庭の味付けの違いがあるためやむを得ないことなのですが、今後の食生活のことを考えると、決して無視できない問題です。そこでどちらか一方が我慢するのではなく、できるだけお互いが満足できるような方法を二人で考えていくことが重要です。最初はレシピの通りに調理し、お互いの好みや習慣を取り入れながら調整を繰り返すことで、お互いが満足できる我が家の味がつくられていくでしょう。たまには二人でキッチンに立ち、料理を作ってみるのもよいものです。先の調査によると、二人でキッチンに立つ夫婦の92・9%が夫婦間のコミュニケーションが取れていると感じています。例えば休日や普段ではできないような手間と時間をたっぷりかけた料理を、二人で作ってみるのはいかがでしょうか。いつもとはまた違った楽しい食事の時間になるはずですよ。

<他人事じゃない!? 怖~いトラブル>

消費生活のお話

まちづくり推進課広報広聴係(内線185)

衣替えの季節に多い

クリーニングに関するトラブル

(事例)

クリーニングで仕上がったスーツを受け取って、そのままクローゼットにしまった。半年以上経ってからスーツを出したら、ズボンが自分の物でないことに気づいた。すぐにクリーニング店に申し出たが、「スーツを引き渡したのは半年以上前で、その際は何も言われていません。規約上、責任はありませんし、当店では対応しかねます」と言われた。

クリーニング協会が定める「クリーニング事故賠償基準」には「利用者が洗濯物を受け取った後6カ月を経過したときは、クリーニング業者は本基準による賠償額の支払いを免れる」とあり、この事例の場合には、店に対応を求めるのは難しいと思われます。

トラブルを防ぐためには、店頭で衣類を引き取る際に、自分が出した物で間違いないかを、店員と一緒に確認しましょう。仕上がり状態も合わせ、何かあればすぐに店に申し出ましょう。

余談になりますが、家に戻ったら衣類をすぐにビニール袋から出して、数時間陰干しして溶剤を飛ばした上で収納すると、収納の変色などを防ぐことができます。

消費生活相談窓口

日時 月~金曜日 午前9時~午後4時(予約優先)

場所 市役所1階 広報広聴係

※相談には、できるだけ契約者本人がお越しください。

